

地域ネットワークだより

MBCは今年度、県や市町村などと連携してテレビ・ラジオ・WEB・SNSなどで地域の魅力を発信しふるさとを元気にする集中プロモーション「MBCふるさとプロジェクト」を展開しています。



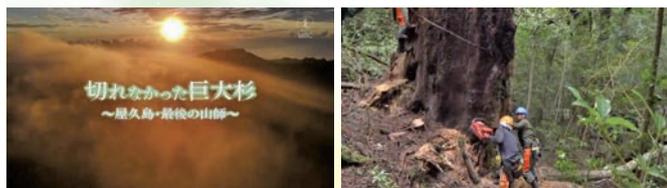
第7弾は「屋久島ウィーク」でした。樹齢1000年をこえる深い緑に包まれ、生命が育まれる島・屋久島は1993年12月に日本で初めて世界自然遺産に登録され、今年で登録から30年を迎えます。この間の歩みをふりかえり、これからを考える特別なプログラムを発信しました。



ラジオではラジオカー・ポニー号が1週間、屋久島の各地をめぐる「モーニングスマイル(月～金 午前6時30分～)」をはじめ各番組で20回以上にわたって生レポートしました。この中では、大阪から移住してきてモーニング専門のカフェを営む女性や、海の幸、魚などを守る活動をしている指導漁業士の男性など島に暮らすさまざまな人をご紹介します。



テレビ番組「あの日のふるさと(月～金 午後6時55分～)」では戦後の高度成長期に国策として推進された屋久杉伐採の基地として賑わった小杉谷集落の懐かしい風景などを1週間にわたってお届けしました。



「どーんと鹿児島・切れなかった巨大杉～屋久島 最後の山師(11月22日午後8時～)」では林業に従事する山師親子の姿を通して自然への畏怖と共生、職人としての矜持など、知られざる「もうひとつの屋久島」を長期取材で描きました。



11月25日には世界自然遺産30年のこれまでとこれからを考える記念のシンポジウムが屋久島町で開催されました。この中では、かけがえない世界の宝を守りながら自然と人が共に生きるための地域づくりについてトークセッションが行われ、その模様は後日「MBCニュースナウ」で紹介しました。

MBC開局70周年特別番組ラジオドラマ

朝はあけたり

～決死の密航 奄美日本復帰を伝えた男たち～

MBCラジオ
放送日時

2023.12月25日(月) 午後2時から放送

今年、終戦後米軍統治下に置かれた奄美群島が日本に復帰して70年の節目の年です。70年前の12月、復帰の喜びにわく島民の声を全国に伝えたいと、奄美大島に密航した2人の放送人がいました。ラジオドラマ「朝はあけたり」は、その密航秘話や関わった人たちの思いをMBCに残る当時の音声を織り交ぜながら描きます。

米軍統治下に置かれた奄美群島では、名瀬市長などを務めた泉芳朗らを中心に「奄美群島祖国復帰運動」が沸き起こりました。島民は署名活動やハンガーストライキなどで祖国復帰を訴え、奄美群島は1953年12月25日に日本に復帰することになりました。

8年間の米軍統治から解放される島民の喜びの声を全国に伝えたいと2人の放送人が立ち上がり、その年の10月に開局したばかりの「ラジオ南日本」の岩橋健正アナウンサーと古川満雄技術課長の2人です。米軍統治下の奄美群島はいわば「外国」で、入島するにはパスポートが必要でした。しかし正式な渡航許可証は入手できず2人が奄美大島に渡る手段は密航しかありませんでした。



◀奄美復帰記念祝賀会 名瀬小学校



▶復帰の喜びを全国へ伝える
中継スタッフ



▲収録にのぞむ恵さん(左)・迫田さん



▲ナレーション 元ちとせさん

脚本は、映画「亡国のイージス」で日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞した飯田健三郎さん。演出は大河ドラマ「琉球の風」などに出演歴のある豎山博之さん。そしてジャズピアニストの松本圭使さんが奄美復帰祝賀の歌「朝はあけたり」をイメージして、ドラマのメインテーマ曲を書き下ろしました。キャストもスタッフも「オール鹿児島」で作る1時間の特別なラジオドラマです。

MBCでは「復帰の日」の12月25日(月)午後2時から放送します。また奄美大島のコミュニティラジオ局でも放送することになっています。



▲収録風景 11月・東京

かごしま

移住相談会 IN 大阪



「かごしま移住相談会IN大阪」は、県内への移住を促進するため鹿児島県が開いたもので11月5日の東京会場に引き続きMBCは本イベントの企画・運営を担当しました。当日は関西圏を中心に鹿児島への移住を検討している約30人が参加しました。

少子高齢化や過疎化が進む県内の自治体にとって移住・関係人口を増やすことは持続可能性をもたらす希望の光となっています。こうした中、関西圏から鹿児島への移住を考えている人を対象に、鹿児島の魅力をPRするイベント「かごしま移住相談会IN大阪」が11月26日(日)、大阪市北区のMBSちゃやまちプラザで開かれました。

先輩移住者の体験談を伝える「先輩移住者トークセッション」では、2016年に東京から指宿市に家族で移住した浦野敦さん良美さん夫婦が登壇しました。未経験で始めた有機農業と宿の経営について、きっかけや準備したことを紹介したほか、台風など海のそばで暮らす上で困ったことなどを率直に語りました。



同じく大阪出身で徳之島・伊仙町に移住した伊仙町役場職員の田部奈津実さんは、「移住する前は週7でユニバ(USJ)通いだったが、今では週7で海通いになった」とライフスタイルに大きな変化があったことを紹介し手つかずの自然が広がる離島暮らしの魅力を自ら撮影した写真を交えながら実感をこめてPRしました。



県内からは鹿児島市、薩摩川内市、霧島市、伊仙町などの9市町村と県農業・農村振興協会が参加し、会場の周囲にブースを出展したほか、参加市町村PRタイムでは移住担当者がそれぞれのまちの魅力や特徴をPRしました。

大阪出身で、以前は梅田近辺で働いていたという肝付町役場職員の仲西康至さんは「町のキャッチコピーは”東洋のフロリダ”、ぜひ現地に1度来てほしい」と移住体験ツアーのPRなどを行いました。



鹿児島の魅力をPRする移住イベントですが、今後はオンラインで来年2月まで毎月実施する予定です。

移住相談会IN大阪 参加市町村・団体

鹿児島市／出水市／薩摩川内市／霧島市／志布志市／さつま町
湧水町／肝付町／伊仙町／鹿児島県農業・農村振興協会



タスキをつないで37年

県地区対抗女子駅伝

2024年
1月28日(日)
午前10時
号砲!



県内の女性ランナーのレベルアップを目的に、MBC創立35周年を記念して1988年に始まった鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会は、今年度も年明けの1月28日(日)、霧島路を舞台に行われ、県内12地区の女性ランナーがタスキをつなぎます。

▶▶▶ 始良連覇 / 前回のレースふりかえり

県地区対抗女子駅伝は霧島市の隼人運動場をスタート・フィニッシュにハーフマラソンの距離を6人でタスキをつなぎます。前回大会は区間ごとに先頭が入れ替わる激しい展開の末、5区でトップに立った地元始良チームが連覇しました。始良チームの優勝は15回目、参加チームの中で最多です。また日置チームは4位に入り、Bクラス優勝。今大会はAクラスでレースに臨みます。クラス別の優勝争いも地区対抗女子駅伝の見どころのひとつです。



70周年 鹿児島県女子駅伝競走大会 総合結果		
優勝	始良	1:10:22
2位	鹿児島	1:10:52
3位	出水	1:11:17
4位	日置	1:11:49
5位	肝属	1:13:20
6位	川薩	1:14:43
7位	川辺	1:16:33
8位	熊毛	1:16:49
9位	曾於	1:17:34
10位	大島	1:17:55
11位	伊佐	1:18:03
OP	指宿	1:21:11

過去36回 各チームの優勝回数	15回	10回	4回	2回	1回
	始良	肝属	鹿児島	日置・曾於	川辺・出水・大島

▶▶▶ 事前に12チームを番組で紹介、本番はラジ・テレ・ネットでライブ中継

MBCでは今大会に先立ち、来年1月11日(木)から平日の12日間、午後4時47分から各チームを紹介する番組を放送します。チームによってはランナーの確保に苦労したり、離島ゆえに全員そろっての練習が難しかったりと、抱える事情はさまざまですが「地域の皆さんに走りて恩返ししたい」という意気込みは全チームに共通しています。

本番当日はレースの様様をMBCのラジオ・テレビ・インターネットでお届けします。インターネットではスタートのおよそ2時間前から出発式の様様をライブ配信します。レース初挑戦の中学生から一般ランナーまで72人の代表選手にチームメイトから熱いエールが送られます。登壇した選手ははにかんだり、笑顔を見せたり、ガッツポーズで応えたり。レースとは違うランナーの素顔にもご注目ください。

